



校長室の窓から

《校長だより》

神奈川県立市ヶ尾高等学校

校長 増淵 広美

平成 28 年 12 月 22 日

第 18 号

「学び続ける学校」「進化し続ける学校」

今年も市高生は様々な分野で活躍し、それが生徒一人ひとりの成長と自信につながったことと思います。また、教職員も様々な場面で生徒の皆さんを支え、さらによりよい指導・支援ができるよう学び続けています。そして、そのような生徒や教職員の取組を支えてくださっているのが、PTA活動を中心とする保護者の皆様です。

本校では、常により高きを目指して生徒も教員も学び続け、成長、発展していきたいと考えています。そんな視点から、今年の生徒と教職員の取組を振り返ってみます。

◆◆ 生徒会の躍進 ～その先に期待すること～

今年を振り返ってまず挙げたいのが、生徒会の躍進です。

5月の生徒会選挙の大改革をはじめ、目安箱や生徒会掲示板を設置するなど、活動の幅を広げています。目安箱では、生徒の意見をとおして生徒会本部が各委員会に働きかけたり、まとめた意見を先生方と共有したりしてよりよい学校づくりに生かしています。また、

生徒会掲示板には、部活動の大会日程や本部役員が応援に行きって撮った写真、目安箱の回答などを掲示し、会員相互の理解と生徒会活動の活性化に役立てています。つい最近では、12月15日（木）の昼休みに、生徒会役員が直接生徒から意見を聴く機会を設けました。そこに参加した人数は決して多くはありませんでしたが、何かと忙しい昼休みに、自分の意見を伝えるために参加した生徒が何人もいるということに大きな意義があります。さらに今後は、月一回程度の特別委員会（CORE）とのランチミーティングや青葉区内の高校との交流会の実施などにも取り組んでいきたいとのこと。

生徒会には、学校を変える力があります。それには、会員である生徒一人ひとりが学校をよくしていこうとする意識を持つこと、そしてそれをリードする生徒会役員や生徒会各組織のリーダーたちが、会員一人ひとりにその大切さに気づかせていくことも必要です。生徒総会、壮行会、予算折衝などの恒例の取組に加え、日常の小さな気づきや改善に向けた取組をとおしてより多くの生徒が当事者として生徒会活動に関心を持ち、一人ひとりの力は小さくても皆で力を合わせれば、よりよい生徒会活動やよりよい学校をつくっていくことができるのだという感覚をつかんでください。

■生徒会活動から社会参画意識へ

これからの社会の担い手である皆さんには、生徒会活動でつかった確かな手応えをさらに社会参画意識につなげてほしいと思います。そのためには、高校在学時代から社会とつながる機会や自分の意見を社会に発信する機会に触れることも大切です。今年、その一環として、3月の「高校生版教育委員会」（1名）をはじめ、8月の「かながわハイスクール議会2016」（3名）、11月の「青葉区明るい選挙推進協議会推進委員・推進員研修会」

におけるパネルディスカッションへの登壇（4名）、「黒岩知事との“対話の広場”」（2名）などへの参加を積極的に進めてきました。部活動単位でも、施設への訪問、小学生への技術指導、地域の行事での司会や演奏など、地域での活躍が盛んになってきています。今後は、さらに地域との連携・協働をとおして、地域の課題解決に高校生の力を発揮できるような場面もつくっていききたいと考えています。

◆◆ 授業力向上に向けた研究の充実 ～何のための「授業改善」なのか～

本校では、これまで学校全体で授業改善に取り組んできましたが、今年には校内に「授業力向上ワーキングチーム」を設置し、その取組を一層強化しました。では、今、なぜ授業改善に学校全体で取り組んでいるのか。その目的は、生徒の学力の向上と定着、これからの時代を生きるうえで必



生徒会の目安箱と掲示板



目安箱の意見への回答

青葉区の選挙に関する研修会に本校生徒がパネリストとして参加

11月12日（土）の午前中に開催された「平成28年度青葉区明るい選挙推進協議会推進委員・推進員研修会」（主催：青葉区明るい選挙推進協議会）のパネルディスカッション「高校生から見た18歳選挙権と主権者教育」に本校生徒4名（生徒会長・副会長、選挙管理委員長・副委員長）がパネリストとして参加。本校の生徒会役員選挙や模擬投票、「現代社会」の授業における取組などにも話題が及びました。

当日は、ファシリテーターを務めた18歳選挙権と主権者教育の第一人者である西野偉彦先生（慶応義塾大学SFC研究所上席所員）の講演もあり、貴重な学びの機会にもなりました。西野先生からは、本校生徒のパネリストぶりや本校の教育実践についてお褒めの言葉をいただきました。

当日の様子は西野先生のWebサイトでも紹介されています。その中で、他の都道府県に先駆けていち早く全公立高校でシチズンシップ教育の一環として「政治参加教育」を導入した本県においても本校の取組が先進的であり、ご自身がシチズンシップ教育アドバイザーを務め、現在県を代表する主権者教育のリード校に比べても全く遜色のない取組であると熱いメッセージをいただいています。



要な資質・能力の育成です。変化の激しい社会を背景に、生徒の皆さんに身に付けてほしい力も、より主体的、能動的、発展的な力に変化しています。その資質・能力については、それぞれの場面で様々な言葉で表現されていますが、「何を知っているか、何ができるか」（個別の知識・技能）だけでなく、「知っていること・できることをどう使うか」（思考力・判断力・表現力等）、「どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか」（主体性・多様性・協働性、学びに向かう力、人間性など）という、いわゆる「21世紀型能力」もその一つです。

■ゴール（求められる力）が変われば授業も変わる



本校の学校教育目標も、そのような社会背景や教育の動向、生徒の実態や生徒の将来を視野に入れ、「社会の変化に対応する資質・能力の育成」を掲げ、学習面では、様々な教科・科目、学び方の工夫等をとおして確かな学力、多様な仲間との協働をとおして新たな価値を創造する力、生涯にわたって自ら学び続ける力の育成に重点を置いています。ここでいう「確かな学力」とは、単なる知識量ではなく、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」（学力の三要素）から構成される力です。これらの力は皆さんの進路実現に乖離するものではなく、むしろこれから問われ続ける力であり、すでに始まっている大学教育改革やこれから実施されようとしている大学入学者選抜改革に通じる力です。今、社会で求められている力は「知識を再現する力」ではなく、「自ら考え創造する力」であり、そのような力を育むために授業も変わっていく必要があるのです。

今回、本校が進める授業改善について、一步踏み込んだ内容を生徒の皆さんに伝えたのは、授業の主役である生徒の皆さんが、授業者である先生方と共通の意識を持ってともに授業をつくりあげることにより、目指す力を確実に身に付けてほしいと考えているからです。

資質・能力に恵まれた市高生の皆さんは、社会に出ればその中核として活躍できる人たちです。そのためには、目先のことだけにとらわれず、これからの変化の激しい時代を乗り越え、新たな価値を創造できる「真の力」を身に付けるために、主体的に学習に取り組んでください。

■ 12月3日（土）《第2回学校説明会》

12月3日（土）、本校体育館にて今年度の第2回学校説明会を開催しました。約1時間の説明会を午前中に2回、午後に1回、計3回行い、当日の来場者は、昨年より約100名多い1,282名。お忙しい中をご来場くださった中学生・保護者の皆様に心からお礼申し上げます。

夏の第1回説明会に引き続き、今回も、この日のために準備を重ねてきた有志生徒（61名）による「サポートチーム市ケ尾」が大活躍。「文武」の「武」（生徒会活動、制服・体育着、部活動等）について、生徒会本部、野球部、ダンス部、吹奏楽部の皆さんが、笑顔と滲刺としたパフォーマンスで紹介してくれ、来場者アンケートでもたいへん好評でした。また、寒い中でしたが、サポートチームの皆さんが、来場された皆様に気持ちのよいあいさつでお迎えし、正門から体育館の席まで誘導してくれたので、来場された皆さんに速やかに着席していただくことができました。「サポートチーム市ケ尾」の皆さん、本当にありがとうございます！！



生徒による説明の最後はいつもの「市高最高！」で締めくくり。活き活きとした市高生の様子は、アンケートでも、とても好評！

～高等学校教育を取り巻く状況～

ここ数年、グローバル化の進展や人工知能（AI）の飛躍的な進化など、社会の加速度的な変化を背景に、教育における明治以来の大改革と言われる「高大接続改革」が進められています。

高等学校教育改革では、次期学習指導要領の改訂や「高等学校基礎学力テスト（仮称）」の実施、大学入学者選抜改革では、現行の大学入試センター試験に替わる「大学入学希望者学力評価テスト（仮称）」の導入や個別大学の入学者選抜の改革、大学教育改革では、「三つの方針」（「卒業認定・学位授与の方針」（ディプロマ・ポリシー）、「教育課程編成・実施の方針」（カリキュラム・ポリシー）、「入学者受入れの方針」（アドミッション・ポリシー））に基づく大学教育の質的転換等が展開されています。

このような三位一体の改革の根底には、これからの時代に向けて身に付けるべき力の育成、特に重視すべき（1）十分な知識・技能、（2）それらを基盤にして答えが一つに定まらない問題に自ら解を見いだしていく思考力・判断力・表現力等の能力、（3）これらの基になる主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度の育成が掲げられています。また、それは、将来の予測が難しい時代に、多様な人々と学び、働きながら、主体的に人生を切り開いていくために必要な力でもあります。

■ 12月3日（土）《谷本川花植えボランティア》

12月3日（土）9時から、本校裏手を流れる谷本川の護岸堤で花植え作業が行われました。この作業は、年2回（6月と11月下旬～12月上旬）、地域のボランティア団体「市ケ尾桜コスモスの会」の主催で行われ、今年で13年目。本校では、長年1～2名の参加でしたが、昨年参加者が増え、今回は、教員、生徒合わせて8名が参加。あざみ野中学校の生徒（約20名）ともよい交流ができました。今回の取組は『タウンニュース（青葉区版）』（12月15日（木）号）に掲載されています。今回植えたチューリップが花開く季節がとても楽しみです。



■ 12月10日（土）《バトン部全国大会》

12月10日（土）に幕張メッセ（イベントホール）にて開催された「第44回バトントワーリング全国大会」に、本校バトン部（2年生15名、1年生9名）が出場。テーマは「出陣!!」。練習に練習を重ねて臨んだ本校生徒の意気込みそのものです。総勢24名でのダイナミックなフォーメーションは迫力があり、ぴったりと息の合った切れのよい動きは力強く、県大会（9/19）、関東大会（10/29）

を経て、さらに演技に磨きがかかり、実に見応えがありました。出入りを含めても5分ほど。その短い時間にこの1年間の厳しい練習の成果を凝縮し、懸命に演技をしている部員の姿に熱いものがこみ上げてきました。

さすが全国大会、どのチームも素晴らしい演技で会場を魅了。本校は銀賞（44校中27位。神奈川県の出場校ではトップの成績）でしたが、私学の中高一貫校が並み居る中（特に関東勢は代表15校中、公立高校は本校のみ）、ほとんどの部員が高校でバトンを始めた本校生徒たちの頑張りに大きな拍手を送りたいと思います。また、金賞に輝いたチーム、中でも最優秀賞で文部科学大臣賞に輝いたチームの糸乱れぬ演技は息を飲むほどの出来栄で、大いに勉強になったことと思います。今回の経験を糧に、バトン部のさらなる成長に期待しています。

■ 12月13日（火）14日（水）《自転車点検》

12月13日（火）、14日（水）の午前中、自転車通学者への安全対策の一環として、PTA学年委員（1年）による自転車点検が実施されました。当日は、神奈川県自転車商協働組合横浜北支部からスズキサイクル（中山）、蕪木輪業（市ヶ尾）、恩田モータース（青葉台）のご協力を得て、約450台の自転車を点検。その結果を学年委員の皆さんが点検表に記入し、手際よくハンドルにホチキスで留め、合格の場合は青シール、要修理の場合は赤シールを貼っていきます。点検の際、協働組合の方に簡単な修理をしていただいた運のよい自転車もあります。本当にありがたいことです。



「要修理」の自転車はこの機会に是非修理をしておきましょう。登録シールを貼っていない自転車が一定程度あったこと、駐輪の状況が乱雑であったことなどは、規範意識における今後の課題です。

■ 12月16日（金）《薬物乱用防止講演会》

12月16日（金）の1・2校時、1年生を対象とする「薬物乱用防止講演会」を本校体育館で実施しました。

この講演会は、薬物乱用による心身への影響、依存症、疾病との関連、社会への影響などについての理解をとおして、適切な行動選択と意思決定ができる資質・能力の育成を目的としています。

講師には、神奈川県警察本部少年育成課少年相談保護センターと青葉警察署生活安全課防犯少年係の方、お二人をお迎えしました。映像とお話をとおして、薬物の依存性、心身への影響の恐ろしさ、そして、ちょっとした心の隙や油断が取り返しのつかないような状況につながることを改めて理解したことと思います。どんなときでも「自分を大切にする」ことを忘れないでいてください。



■ 12月16日（金）《性感染症予防講演会》

12月16日（金）の2・3校時、2年生を対象とする「性感染症予防講演会」を本校格技場で実施しました。

この講演会は、自他の身体的、精神的な違いを理解し尊重する態度や性行動に対する賢明な意思決定・行動選択の能力を身に付けるとともに、性感染症、感染経路、予防方法について正しく理解することを目的としています。講師として、青葉福祉保健センターから2名の保健師さんが来てくださいました。

性感染症については、保健の授業でも学びますが、今回の講演会では保健師さんから直接お話を伺うことができたので、新たな視点からの学びも多かったと思います。

■ 12月16日（金）《防災避難訓練》

12月16日（金）の4校時に、地震防災のための避難訓練を行いました。9月の「かながわシェイクアウト」にも参加しましたが、今回は、大地震が起き、建物が崩れて火災が起こったという想定で、全ての生徒、教職員が実際にグラウンドに避難します。

11時40分、大地震発生の放送が流れ、各教室では身の安全を確保するため机の下に入るよう指示。さらに、11時41分、火災発生と避難の指示が放送され、一斉に避難開始です。各クラスの授業担当者が、予め決められた避難経路を通して避難場所であるグラウンドまで誘導。グラウンドではすぐに整列して速やかに人員を点呼し、本部に報告することになっています。全員の確認がそろったところで避難完了。その後、副校長から講評です。

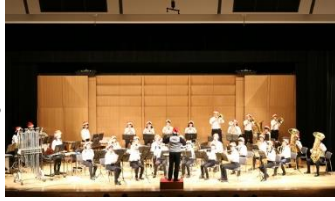
今回は、最も避難が早かったクラスが4分15秒、最も時間がかかったクラスが12分52秒とかなりの差があり、避難の迅速性に課題を残しました。また、講評でも指摘がありましたが、上履きのかかとを踏んでいる生徒、ポケットに手を入れている生徒も少なからずいました。確かに寒い中での訓練ではありましたが、これも次回の課題です。実際に災害が起こった時には、どれだけ避難訓練に本気で取り組んでいたかが生死を分けます。「何よりも大切な命を守る」ということを心に留め、避難訓練を行う意味をもう一度しっかりと考えてください。

講評では、「自助」（自分で自分を助けることで、防災の基本）、「公助」（行政による救助・支援）、「共助」（自助と公助との間を埋めるもの。家族、学校や企業、地域コミュニティで共に助け合うこと）についての話もありました。特に「共助」では、学校であれば、その基本は日ごろの学校での助け合い。縁あって市高に集う仲間であり、誰もが「唯一無二」の存在。少しの心がけ、少しの温かな言葉がけから共助の基本を実践してほしいというメッセージが送られました。

■ 12月17日（土）《吹奏楽部ウィンター・コンサート》

12月17日（土）18時から緑公会堂（中山駅下車徒歩5分）にて、吹奏楽部の「第4回ウィンター・コンサート」が開催されました。ウィンター・コンサートは、例

年、3年生が引退して新体制となった1・2年生部員による外部での初の演奏会。来年の5月7日(日)に青葉公会堂で開催される「第38回定期演奏会」に向けた第一歩です。



プログラムの構成は、日本初演となる「クリスマス・ファンファーレ」と「管楽器のためのセレナーデ」を含む第1部に続き、第2部は、クリスマス・ポップスをテーマに、サンタの帽子をかぶった部員の笑顔の演奏で、会場の皆様も多くのクリスマス・ソングを楽しみました。

■ 12月20日(火)・21日(水)《球技大会》

12月20日(火)、21日(水)の2日間、お天気にも恵まれ、澁刺とした球技大会が行われました。競技種目は、男女サッカー、男女バスケットボール、男女混合バレーボール、女子ドッジボールの6種目。本校の球技大会は、競技だけでなく、クラス一丸となつての応援も盛り上がります。この日に向けて、朝や昼休みに練習を続けてきたクラスもあり、クラスの結束が固く、どの種目も熱戦を展開。



円陣を組み、肩を組んで校歌を熱唱。この後はもちろん、いつもの「市高最高！」

体育館での最後の試合(男子バスケットボール決勝)の前に、3年生の声かけでその場にいた生徒たちが円陣を組み、3年生から次の市高の担い手である2年生にこれからの市高が託された後、皆で肩を組んで校歌を歌う姿に目頭が熱くなりました。こういう青春の1ページが、よき思い出であると同時に、時には心の支えになるのだと思います。

◆◆ 冬の球技大会名物「市高豚汁」!

12月の球技大会での大きな楽しみは、毎年、保護者の皆さんが作ってくださる豚汁。今回は何と1,500食分を用意!(約1,200名の生徒分、職員分、生徒のお代わり分)。1,500食分の食材を地元で用意するのは至難の技。



かなり早い時期から担当の方が食材調達に奔走。前日の準備は勿論、当日も朝早くから豚汁づくりが始まります。豚汁のよい匂いに誘われて、試合の合間を縫って予定の11時前から、豚汁の大きな寸胴鍋がたくさん並ぶピロティで心待ちにしている生徒も結構いました。今回豚汁作りに参加して下さった保護者の方は、前日の準備を合わせると約90名。たくさんの愛のこもった温かい豚汁を生徒も職員も堪能させていただきました。保護者の皆様の温かい思いがあつてこそその豚汁です。心から感謝申し上げます。



刻んでいたネギの切り口から「ハート型」の模様が!愛がいっぱいです。

◆◆ さて、球技大会の結果は?

【男子サッカー】

1位: 2年1組 / 2位: 1年10組 / 3位: 1年6組

【女子サッカー】

1位: 1年2組 / 2位: 2年5組 / 3位: 3年9組

【男子バスケットボール】

1位: 3年1組 / 2位: 2年7組 / 3位: 3年9組

【女子バスケットボール】

1位: 3年8組 / 2位: 3年10組 / 3位: 1年8組

【混合バレーボール】

1位: 3年7組 / 2位: 3年3組 / 3位: 2年2組

【女子ドッジボール】

1位: 3年4組 / 2位: 1年2組 / 3位: 3年8組

●● 書道部が県で受賞多数! ●●

教育長賞、書道専門部会長賞、団体優勝を受賞

本校書道部が、神奈川県高等学校総合文化祭「第53回高等学校書道展」において、教育長賞(1年 二唐彩乃さん)、書道専門部会長賞(1年 吉田紗和さん、成瀬真生さん)を受賞。合わせて団体優勝を果たしました。校長室から職員室に向かう途中、いつも熱心に書に励む書道部員の姿を見かけます。今回の受賞も、日ごろの妥協を許さない練習の賜物であることは間違いありませんが、ただ練習だけで勝ち得た結果ではないと感じています。

書道部の皆さんは、活動場所である書道室をいつも隅々まで掃除し、常に清らかな状態を保ちています。清らかな場所で書に向かえば心も落ち着き、書にもその心が表れます。また、書道室だけではなく、練習が終わった後、廊下やトイレなど自分たちが使う場所はもちろん、それ以外のところでも、気がつけば丁寧に掃除をしている姿を見かけます。大勢の来校者が予定される行事の前日などにも顧問の先生の声かけで、広い範囲の掃除をいやな顔することなくしてくれています。そういう私心のない心や凡事徹底の心構えが、自らの可能性を信じ、よりよい作品を求め続けてまっすぐに進んでいく力につながっています。

本校書道部の強さは、技術的な面だけでなく、「心・技・体」の全てを磨いているところにあるのだと思います。



「教育長賞」受賞作品



全て本校書道部作品(団体優勝) 右の二作品が「書道専門部会長賞」受賞作品